

# 郷土文化財紹介

## 古文書シリーズ

### <坂下神社古名を推測>

神社の棟札には、「何時、何処で、誰が、何をしたか」がおおよそ記されており、長い間神社の本殿で大切に保存されてきました。だから、棟札に記されたことがらや名前など丁寧に調べると、その地域の昔のことが少し分かってきます。棟札は、歴史の証人のようなもので大切に保存していかなければと考えます。

→坂下神社の棟札 天保13年1月28日 元の町庄屋曾我愛右工門が正八幡宮の宝前にて「我此土安穩を祈願されたこと」がわかる 三井寺住職が祭祀を行っています。



坂下神社本殿に納められている江戸、明治時代の古い棟札を調べると明治時代から「坂下神社」と記されています。江戸時代のものには「坂下神社」の文字はありません。最も多く見受けられるのが「八幡宮」「八幡大権現」です。また、最も古いと思われる棟札には「十二双八幡宮」と記され、そのように表記された棟札がいくつかありました。

素朴な疑問ですが、江戸時代には坂下神社のことをどのように呼んでいたのか気が

かりになりました。これを調べるには他の物証が必要になります。何かそのようなものは残っていないかと思案をしていると、坂下神社の倉庫から鉄製の「宝暦10年6月吉日」と鋳ぬかれた錆びた湯釜が見つかり、その前文になんと「十二双八幡宮湯釜」とありました。また、幾つかの古文書に「十二双に於いて」とか「十二双の森」と記されていました。明治になってからの行政文書の一つに「十二双劇場」と表書きされた綴りがあります。これは、今の福德神社境内になりますが、そこに劇場を造ろうと計画し寄附を募ったときの記録でした。今は亡き古老から聞いた話ですが、「明治生まれの私の母は十二双様と呼んでいた」とのことです。

このような物証もあり、江戸時代の呼び名は「十二双八幡宮」であったと推測しました。記録では、寛文元年に火事で焼けてしまったはずの「十二双」ですが、長年に亘り「十二双様」と呼ばれ親しまれてきた様です。



#### ↑坂下神社の倉庫で見つかった湯釜

東美濃恵那郡  
坂下村十二双  
八幡宮湯釜  
御宝神村中  
氏子息災子孫  
繁栄所  
宝暦十庚辰歳  
六月吉日

1760年6月、十二双八幡宮へ湯釜が寄贈され、坂下村中の息災と子孫繁栄を祈願したことが分かる。誰が寄贈したかは記されていないが、町組の庄屋と推測します。

